



シリアとの国境に近いアンタキヤの街。多くの建物が倒壊した。

被災された方の悲しみを抱きしめて

緊急人道支援を仕事にしている、紛争や災害に慣れるということはない。

どのような支援がどういった順番で必要とされるか、といった支援の内容や方向性などはジェンの経験だけでなく、世界中で蓄積された知見や研究があり、支援は進化している。緊急事態であっても守るべきことが提言されていて、例えば東日本大震災の際に日本でも知られるようになったスフィア基準の様な、様々な基準もある。こうした基準は法律ではないが、これらに従うことで被災された方々の暮らしが迅速に回復に向かうことを目指せるようになっている。同時に、一つひとつの災害は独特で、二つとして同じものではなく、常に臨機応変な対応が求められる。

決して慣れることができないのは、被災された方々の悲しみに出会うことだ。今回のトルコ・シリア地震では、これまでシリア難民支援を実施してきた現地の提携団体のORANGEの本部がガジアンテップにあり、彼ら自身が被災しながらの支援となった。シリアから逃れてきて、厳しい暮らしを何とか成り立たせようとする難民の方々を支えてきたORANGEの仲間たち。自らもシリア出身の方も多いORANGEの方々が、目の前の被災者の悲しみを受け止めながら、支援を進めてくれている。

JEN理事・事務局長

木山 啓子

スタッフの
ひとこと

私はとにかく忘れっぽい。そのためiPhoneアプリ「リマインダー」が欠かせません。どうしても忘れてはいけないことをセットして、毎日いろいろ教えてもらっています。しかし先日大切なことを「リマインダー」に記録するのを忘れてしまい、案の定すっかり忘れてしまいました。とうとう私はリマインダーに「今日登録すること、忘れてない？」というリマインダーをセットすることになりました。(広報・ファンドレイジング部 浦川)

長く続く紛争や大きな災害のあとで「生きる力」を支えていく ジェンの活動へのご支援のお願い

ご自宅に眠る「モノ」で寄付する JENのお宝エイド®

使わなくなった商品券、未使用切手、書き損じはがき、外国切手など、ご自宅に眠っている“お宝”でジェンをご支援いただけませんか。本ニュースレターに同封しました封筒をぜひご利用ください。



新年度・新学期のお掃除で、 BOOK MAGIC はいかがですか。

ご自宅、学校、オフィスなどに眠っている読み終わった本、聴かなくなったCD、観終わったDVD、飽きてしまったゲームソフトを、ダンボールに詰めるだけで、日本全国送料無料で(沖縄県、一部離島を除く)でお引き取り。その買い取り額がジェンの支援事業に役立てられます。



※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。
※QRコードを読み取る際、無料アプリをお使いの方は、アプリによって広告が表示される場合がございます。間違っても広告をクリックされないようご注意ください。
※ゆうちょ窓口・ATMで現金支払いの場合、同封の赤枠の振込用紙を使っても振込手数料が110円かかります。
※手数料についての詳細はゆうちょ銀行のホームページ (https://www.jp-bank-japanpost.jp/ryokin/rkn_sokin.html) にてご確認ください。

東京本部事務局の住所について

今回ニュースレターをお送りする際に使用している封筒の記載住所は旧住所となります。修正に要する費用などを勘案した結果、封筒に表示する住所については、当面古いままで使用し続けることといたしました。皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解賜われますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-27-305
TEL: 03-5114-6201 FAX: 03-5114-6202

ホームページ <https://www.jen-npo.org/>

Japan.Emergency.Ngo

NPO JEN

@NGO_JEN @ngo_jen

このニュースレターは継続可能な森林管理のもと生産された原料で製造された紙、FSC®認定紙を採用しています。



トルコ トルコ・シリア地震 緊急支援

2月6日早朝(現地時間)、トルコ南部でマグニチュード7.8の地震と余震が起き、トルコとシリア両国で、甚大な被害が発生しました。5万人以上の人が犠牲になり、多数のけが人がでています。また、多くの建物が倒壊しました。(2月28日時点)被災された方々に心よりお見舞い申し上げますと共に、犠牲になられた方々とご家族に、謹んでお悔やみ申し上げます。被災地域は、ジェンが提携団体とともに、シリア難民や受け入れコミュニティへの食糧支援を行ってきた地域でもあります。ジェンは人びとの命と暮らしを支えるため、緊急支援を実施します。

トルコ・シリア地震
皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします

緊急募金

多くの方が生活に必要な物資の不足と寒さで厳しい状況にさらされています。現地で一刻も早く必要とされる支援を提供するため、皆さまのご協力をお願いいたします。



クラウドファンディング

4月28日まで、READYFORでクラウドファンディングも実施中です。支援を必要とされる方へ確実にご支援をお届けするため、皆さまのあたたくいご協力をお願いいたします。



パキスタン

クラウドファンディングや緊急募金にご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございます。ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

2022年6月中旬から始まった大雨等の影響で発生した大規模な洪水は、パキスタンの人びとの暮らしに甚大な被害をもたらしました。ジェンが洪水被災者の支援を実施している



洪水の水が残るシンド州・グドゥ郡(1月)



食糧の配布会場

シンド州では、8万9,000人へのぼる人びとが未だ避難生活を送っているとされています。洪水は農作物の生産にも深刻な被害をもたらしています。2022〜2023年の米の生産量は600万トンとの予測もあり、2012〜2013年以来最も少なくなると懸念されています。^{*1}

ジェンが実施した早期ニーズ調査では、シンド州で被災した回答者の9割が、家族に十分な食糧を供給できない状況にあるとわかりました。農家が多いこの地域では、洪水が起きる前、人びとは自ら育てた作物で食糧を賄っていたそうです。育てていた収穫前の作物を洪水で失い、さらに洪水の水が引くのに時間がかかり、種をまく時期を逃してしまった人びとは、食糧を確保することが困難になりました。

ジェンは、皆さまから、クラウドファンディングや緊急募金で託していただいたご支援で、

大洪水で被災し脆弱な立場にある300世帯の方々に1カ月相当分の食糧パッケージを配布しました。

食糧パッケージには、現地の食文化に合わせ、米(バスマティ米)、ビタミン強化型の植物油、紅茶、砂糖、豆ミックス、小麦、乾燥ミルク、塩が含まれています。

被災後厳しい暮らしを強いられた人びとに、命を繋ぐための食糧をお届けすることができたのは、クラウドファンディングや緊急募金でのご支援いただいた皆さまのおかげです。本当にありがとうございます。

被災した人びとは、国内のインフレにより、家の再建も困難な状況です。食糧危機が懸念される中、再び自立した生活を送れるまで、膨大な支援を必要としています。ジェンは今後も大洪水で被災された方々の自立を支える支援を計画しています。

*1 UN OCHA PAKISTAN 2022 Monsoon Floods Situation Report No. 13 As of 6 January 2023

アフガニスタン
人道危機の続くアフガニスタンで、緊急食糧支援を行いました。

人道危機にあるアフガニスタンは今年、1,700万人の人びとが急性食糧不安に直面すると言われています。^{*2}

干ばつの被害を受け、食糧不安が大きく、衛生環境にも課題のあるナンガルハル県の3地区で、ジェンは、2カ月分の食糧と石けんの配布・衛生教育を実施する緊急支援を行いました。国内避難民・帰還民・脆弱な受け入れコミュニティの人びと、880世帯を対象としました。

パキスタン

テロや紛争で学校施設の破壊された地域で子どもたちの学ぶ環境を整えました。

アフガニスタンと国境を接するハイバル・パフトゥンハー(KP)州クラム県で、テロや紛争、宗派間の争いなどの影響で学校の施設が破壊された地域では、生徒たちが安心して学べる環境が整っていませんでした。ジェンは、必要な教育や適切な衛生知識が学べるように、生徒たちの学ぶ環境を整え、対象の8校で15の教室を設置、机や椅子、衛生キットの配布と衛生

教育を実施しました。テロや紛争の影響で、精神的なストレスにより不登校になったり、勉強に集中できなくなったりする生徒がいるため、心のケアに関する意識教育も実施しました。幸いこの地域は洪水の大きな影響は免れたので、計画していた事業を進めることができました。対象校のひとつでは、学校設備が十分でなかったため、生徒は以前床や教室の外に座っていた

ました。学校環境が劣悪なため、多くの保護者が子どもを学校に送ることに否定的でした。事業実施後、その学校の女子生徒のハニヤさん(仮名)は、教室の居心地が良くなったので、以前より学校が好きになったと語りました。ハニヤさんは将来医者になる夢を持っています。教室が完成し、就学率が上がったという報告がありました。対象校の先生によると、9割の

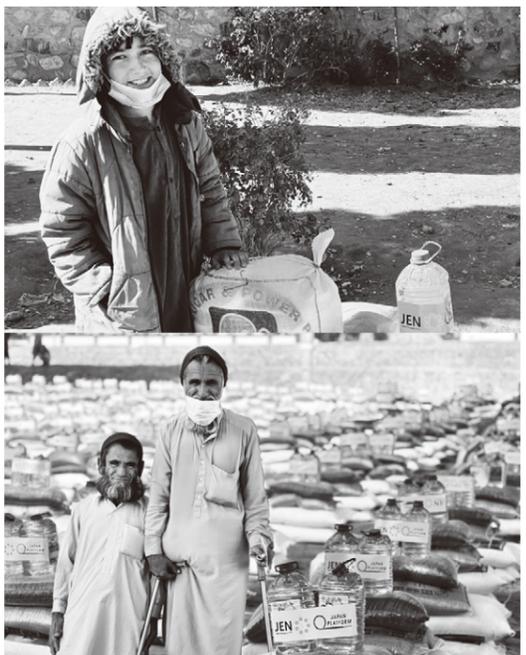
生徒は衛生教育で習得した知識に従っており、衛生キットを家で使用することで生徒個人の衛生状況も改善したということです。ジェンは、紛争や災害が一時的に子どもたちの学ぶ環境を奪ったとしても、将来自立して暮らすことができるよう支えるため、今後も微力を尽くしてまいります。



完成した教室内で席につく生徒たち

食糧を受け取った13歳のアブドゥルさん(仮名)は、父親が数年前に亡くなりました。月に10日畑で働き、7人家族を養っていました。「食糧支援で、冬の間、働くことなく学校に通うことができ、未来への準備ができます。私はエンジニアになりたいと思っています。支援をしてください感謝しています。」と語りました。

原則禁止を發表しましたが、^{*3} ジェンは活動を継続できています。アブドゥルさんのような支援を必要としている子どもは多くいます。ジェンは他の国内外のNGOとも協力し、社会の未来である子どもたちを支える活動を滞りなく継続していきます。対話を続けていきます。



食糧を受け取り、笑顔を見せるアブドゥルさん(上)
配布会場で食糧を受け取る方(下)

* 本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金やジェンへの寄付金により実施いたしました。
*2 UN OCHA: Afghanistan Humanitarian Needs Overview, 2023 (January 2023)
*3 2022年12月24日付の発表

VOICE

自宅も所持品も豪雨と洪水で失いました

受益者の声：ファティマさん(仮名)
場所：シンド州グドゥ郡にある村

ファティマさんは、大きな被害を受けた被災者のひとり。夫、4人の娘、2人の息子の8人家族です。自宅と所持品は豪雨と洪水で破壊され、避難する際にはわずかな衣類しか持ち出すことしかできませんでした。避難して1カ月間は、適切なシェルターも、十分な食糧や飲料水や医療品もなく、簡易なテントで過ごしました。8人家族で簡易なテントに暮らすことは、非常に困難なうえ、寒さをしのぐため仕方なく危険をおかして激しく損傷した部屋に戻ったりもしました。家に戻った際、破壊された家を見て気を失ったと言います。洪水以前、夫は日雇いの労働者でした。ファティマさんも服飾の仕事をし、わずかな収入を得ていましたが、ミシンも洪水で失ってしまいました。ジェンはファティマさんの村で最初に食糧パッケージを配布した団体だったそうです。彼女は、この食糧支援のためにご支援いただいた方々に、心からの感謝の意を表しておいででした。



ファティマさん(現在の住まいで)



洪水で激しく損傷したファティマさんの自宅

ご支援のお願い

洪水被害は甚大で、暮らしの復興には時間を要します。ジェンは今後も現地のニーズに合わせた持続可能性のある支援を行ってまいります。引き続き、皆さまのご協力をお願いいたします。



クラウドファンディング終了報告

洪水被災者支援のクラウドファンディングの終了報告はこちらよりご覧いただけます。

